

平成 28 年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名	大磯町立大磯中学校
-----	-----------

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国 語	A問題・B問題共に、全国及び県の正答率と同程度であり、一定の学力が身に付いていると判断できる。中でも「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」という問いの正答率は、全国・県を大きく上回っている。	A問題の「全体と部分との関係に注意して話を校正する」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」や、B問題の「文章の展開に即して内容を理解する」において全国及び県の正答率を下回っており、課題がある。
数 学	A問題・B問題共に、全国及び県の正答率と同程度であり、一定の学力が身に付いていると判断できる。中でも「具体的な事象における一次関数の関係を式に表すことができる」という問いの正答率は、全国・県を大きく上回っている。	A問題の「垂直の作図の方法」「反比例のグラフの関係を式で表わす」に課題が見られた。B問題においては、「必要な情報を選択し、数学的に表現できる」において全国及び県の正答率を下回っており、課題がある。

質問紙	<p>「学校の授業以外（塾等も含む）の勉強時間」について2時間以上と回答した生徒が全国を大きく上回っており、「学習塾で勉強している」と回答した生徒も全国を大きく上回っている。</p> <p>また、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒が全国及び県より高い結果だったが、その反面「家の手伝い」をしていると回答した生徒は、全国及び県よりもやや下回った。</p> <p>「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」「自分にはよいところがある」に肯定的な回答している生徒が、全国及び県より低い状況である。</p> <p>また、「2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」と回答した生徒が全国及び県を下回っていた。</p>
-----	---

2 学校運営及び授業の充実に向けた取り組み

<p>学習においては、全体的に全国及び県と同程度の結果であり、教職員で取り組んでいる授業研究の成果が反映されていると考える。しかし、設問毎にみると課題もあり、「知識の習得」と「それらを活用する思考力・判断力・表現力」の育成のために、さらなる指導方法の工夫・改善を図っていく。生徒質問紙調査では、自分の考えを発表する機会が少ないと捉えている生徒が多いことから、授業の中で、自分で考える時間を確保し、全員が考えを持てるようにし、全員が発表できるような授業スタイルを取り入れていく。また、互いの良さを認め合い「自己肯定感」を高めることを全ての学校活動で意識して実践していく。</p>
--

3 家庭（地域）へのお知らせ ※取り組んでいただきたい内容や知っておいてほしい内容等

<p>学校の授業以外の勉強時間（塾等も含む）が全国に比べて多いが、その成果が出ているか、学習方法や内容は適切かというところをお子様と一緒に検討していただきたい。また、将来のためにも、全国を下回っている「家の手伝い」をさせて、生活上の役割への責任感を持たせてほしい。</p>
--